



石川労福協

第 489 号 2008年10月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会
発行責任者 上田弘志
編集人 綿 征一
〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
電話 (076) 231-1737
FAX (076) 231-1731
<http://www.ishikawa-rofukukyo.jp>
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行
定 価 一部 20円
昭和39年3月30日 第三種郵便物認可

「平成21年度石川県及び市町の施策に対する要請書」 議員団と自治体担当者へ説明

勤労者の福祉の充実と向上を目指して、全国の労福協は毎年10月～11月を「勤労者福祉強化月間」に設定し、一斉に自治体要請活動を展開している。石川労福協は、この活動に合せて「平成21年度石川県及び市町の施策に対する要請書」を作成し、勤労者福祉強化月間の重点課題として取り組んでいる。1県10市9町に対しての要請には、県労福協の上田弘志理事長、梅澤彰人・橋本和雄両副理事長や労金、全労済、住宅生協、労信協、生協連、勤体協、勤文協、介護ボランティアセンターの役員が参加。労働者自主福祉事業の「助け合い、非営利、全員参加、民主的運営」という協同組合原則に立ち、県内全自治体に「子育て支援・いしかわ緊急サポートネットワーク」と「福祉なんでも相談」の事業に対する協力や、各事業団体の助成金、出資金などの支援を要請している。



石川県議会議員懇談会



金沢・野々市・内灘議員懇談会

小松・加賀・白山・能美議員懇談会



七尾・輪島・羽咋議員懇談会



市長会



町長会

具体的な要請活動として、10月1日(水)に県労福協の才田専務理事と綿征一常務理事が石川県市長会と町長会の事務局を訪れ、要請書を手渡した。

また、10月2日(木)～15日(水)の間、4会場で連合石川地方議員団に所属する県・市・町議会議員と懇談会を開き、要請内容を説明し協力を求めた。

同時に、県内各自治体の窓口となる担当者への説明会を10月14日(火)石川県・金沢市・加賀地区(小松市・ホテルサンルート小松)と15日(水)能登地区(七尾市・のと楽)に分けて開き理解を求めた。

今後の日程は、10月20日(月)に加賀地区自治体要請行動(野々市町・白山市・川北町・能美市・小松市・加賀市)、23日(木)に能登地区自治体要請行動(内灘町・津幡町・かほく市・宝達志水町・羽咋市・中能登町・七尾市)、24日(金)に能登地区自治体要請行動(穴水町・能登町・珠洲市・輪島市・志賀町)の後、11月11日(火)に金沢市長への要請、19日(水)に石川県知事要請を行い、全日程を終了する予定。

加賀地区自治体担当者会議



能登地区自治体担当者会議

緊急サポかなざわセンター 会員交流「芋掘り大会」

10月12日(日)午前10時より、『緊急サポートネットワークかなざわセンター』の利用会員とサポート会員の交流を目的に、金沢市粟ヶ崎地区で「芋掘り大会」を開催した。2回目となる今年は参加者も増え、31家族130名の親子が参加。会員相互の親睦と金沢名産・五郎島金時の芋掘りを楽しんだ。

当日は、絶好の秋晴れの下、旧五郎島の集合場所のテント前で才田巖労福協専務理事が挨拶し、生産者の忠村喜恵長さんが芋掘りのコツを教えた後、近くの畑へ移動し一斉に芋掘りを開始。大きな金時芋が見つかると、畑のあちこちで歓声が上がった。



芋掘りの後、参加者は集合場所で緊急サポスタッフが準備しためった汁と持参の弁当を囲み、また、シャボン玉や会員から提供されたおもちゃの交換会を楽しんだ。参加者は掘った芋をお土産に帰途につき、大好評のうちに終了した。

緊急サポートかなざわコーディネーター 吉田寿子

会員募集状況／サポート状況 9月30日現在

地域センター	サポート会員	利用会員	サポート回数
すず	6	8	2 0
わじま	2	9	5 0
ななお	6	3	0 0
はくい	2 (+1)	5	0 0
かほく	12	52	48 (+5)
かなざわ	105 (+8)	288 (+5)	339(+49)
はくさん	26 (+1)	65	66 (+8)
こまつ・のみ	18 (+1)	32	15 (+6)
かが	3	4	0 0
計	180(+11)	466 (+5)	475(+68)

※()は前月比。なおサポート回数は今年度の総数

事務局日誌

<9月>

27(土) 緊急サポ「新規サポート会員研修会」 フレンドパーク石川

29(月) 石川県大衆運動活動家顕彰会「第1回事務局会議」

連合石川

30(火) 県LSC「事務局連絡会議」 フレンドパーク石川

<10月>

1 (水) 事務局会議 フレンドパーク石川

〃 石川県市長会・町長会「要請書」提出 金沢市内

2 (木) 石川県議員団懇談会 フレンドパーク石川

3 (金) 金沢市・内灘町・野々市町議員団懇談会 フレンドパーク石川

5 (日) 子育て支援「第2回フォローアップ研修会」県地産センター

6 (日) 「新公益法人制度」説明会 石川県庁

8 (水) 石川県本部主催「ろうきん運動推進全体会議」

マリエール

〃 県消費者大会実行委員会 フレンドパーク石川

9 (木) 中部労福協研究集会(～10日)

富山市

12(日) 緊急サポかなざわセンター「芋掘り大会」 金沢市内

14(火) 加賀地区自治体担当者懇談会 小松市

〃 加賀地区議員団懇談会 小松市

〃 県消団連幹事会 フレンドパーク石川

15(水) 能登地区自治体担当者懇談会 七尾市

〃 能登地区議員団懇談会 七尾市

〃 緊急サポ「ブロック別会議」 大阪市

〃 北陸労金「第2回地域推進委員会」 金沢都ホテル

17(金) 第6回福祉グラウンド・ゴルフ中央大会 金沢市芸術村

20(月) 加賀地区自治体要請行動 各市・町

21(火) 第4回労信協理事会 フレンドパーク石川

22(水) 緊急サポ「第7回ネットワーク会議」 フレンドパーク石川

〃 第26回ユニオントラベル協力委員会 フレンドパーク石川

23(木) 能登地区自治体要請行動 各市・町

24(金) 能登地区自治体要請行動 各市・町

中部労福協研究集会

講演と視察報告に75名が参加

中部労福協主催の「2008年度研究集会」が10月9日～10日、富山市『ボルファートとやま』で北陸・東海・近畿地方の労福協役職員や各事業団体、連合の代表など75名(石川労福協から8名が参加)が出席して開催された。

中部労福協の才田巖副会長(石川労福協専務理事)の司会で進められた研究集会の冒頭、主催者を代表し山田保夫会長(大阪労福協)が「日本人の重なるノーベル賞受賞に感激する一方、個室ビデオ店の火災等、世情の不安は労福協としても見逃せない」と挨拶。森本富志雄富山県労福協理事長が開催県を代表して歓迎の挨拶をした。

引き続き「これからの日本社会と労働者自主福祉運動に期待するところ」と題し、早稲田大学社会学部の田村正勝教授(経済学博士)が講演。近代文明の展開プロセスと構造および功罪を詳しく説明し、「近代化の最初は合理的・科学的思想に基づき工業化や民主化が進んだ。そのことにより、迷信や悪い慣習から解放され、また工業化により貧困から解放、民主化により政治的社会的抑圧から解放された」と話し、「しかし、合理化は自然破壊を促進し、工業化は、地域共同体の破壊を生んだ。このプロセスはヨーロッパでは300年、日本は100年で進んでしまい、今、森林は消え人類滅亡の危機にたっている」と苦言を呈した。

休憩後、石川労福協の綿征一常務理事が今年8月31日～9月11日の間、中央労福協主催「第40次欧



山田会長



田村教授



綿常務



境講師

州労働者福祉視察団」に参加し訪問したフランス・ベルギー・イタリアの自主福祉活動について、プロジェクトを活用し視察報告をした。(P6～7参照)

2日目は、国際短期大学専任講師の境次夫氏が「ねらわれています!あなたの退職金!」と題して講演。悪徳商法の手口を詳しく説明した後、被害に遭った人の成すは「まさか私が被害に遭うとは。あんなにいい人だったのに。ちょっとおかしいと思った」の3点で、騙す人の特徴は「初めての電話で笑って話し掛ける人。家庭の中身を詳しく聞いてくれる人」などを挙げた。また、飛び込み訪問や電話での話は信用せず、「関心ありません!」と素早く切ること。その他、多重債務にならないためには、クレジットカードの支払い額の上限は月収の20%で4万円が限度と釘をさした後、孤独な人ほど被害に遭いやすい。外出して、他人と話をすることが被害に関わらない方法と説明した。

最後に、才田副会長が2日間の研修会を総括し終了した。

県LSC事務局次長 一明政行

第17回全国ボランティアフェスティバル新潟

去る9月20日(土)～21日(日)にかけて開催された「第17回全国ボランティアフェスティバル新潟」に「さわやかU」の宮本一二事務局長、三津井司運営委員、太田敏信運営委員、小川正也ボランティア会員、野村昇司マネージャーの5名が参加した。

20日午後1時より新潟市の朱鷺メッセで開催された第3分科会=テーマ『なじられ』ではじまるご近所づくり」と第5分科会=テーマ「新しい地域で暮らすことのできる仕組みづくり」に分かれて出席。超高齢社会を地域で支え合う各地域の活動が紹介され、大変感動し、参考になった。

21日は8時30分から同会場にて、前日の分科会総括から始まり、次に「ボランティア推進フォーラ



ム」のリレートークの後、大会総括があり、12時10分に全日程を終了した。

年々企画に工夫が見られ、内容も充実。ボランティア意識が確実に全国に広まってきていることを実感したフェスティバルでもあった。

「さわやかU」マネージャー 野村昇司



「第6回 福祉グラウンド・ゴルフ中央大会」 秋晴れのもと 270名が競い合う

石川労福協ライフ・サポートセンター主催、ろうきん友の会・県障害者スポーツ協会共催、県グラウンド・ゴルフ協会・北國新聞社後援による「第6回福祉グラウンド・ゴルフ中央大会」が10月17日(金)、秋晴れに恵まれた金沢市大和町の芸術村で開催された。

珠洲から加賀までの各地域ライフ・サポートセンターで予選を勝ち抜いた選手240名と、石川県障害者スポーツ協会より30名を招待し、計270名の選手が個人戦と団体戦(5名1チーム)で順位を競い合った。



奥田建氏が挨拶

開会式では、上田弘志県労福協理事長と紐野義昭県障害者スポーツ協会会長がそれぞれ挨拶の後、競技委員長の開進氏がルールを説明。上田氏と紐野氏による始球式が特別コースで行われ、競技を開始した。

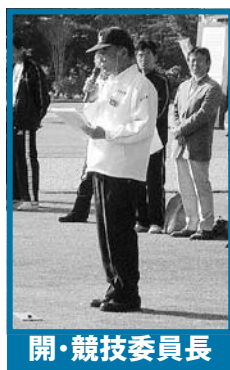
なお、競技委員長の開氏は9月5日～7日の間、長崎県・島原市で行われた全国グラウン

ド・ゴルフ大会で1,700名の選手中1位を獲得したことも紹介された。(開氏は「松任支店友の会」の会員でもあるが、全国大会のため地区予選に参加できず、今大会の選手には選ばれなかった。)

大会は32ホールのレストランで争われ、今回初めて全ホールを2本並行にコース設置したため、プレーがスムーズに進行した。また、当日は予想外の高温(24度)のため、16ホールのプレー終了後、一斉に10分間の休憩を取り、選手の体調にも配慮した。

最後に、表彰式とホールインワン賞、お楽しみ抽選会(27名が当たる)を行い、才田巖県労福協専務理事が閉会挨拶し、今大会もケガ人もなく終了した。

県LSC事務局次長
一明政行



開・競技委員長



始球式

グラウンド・ゴルフ中央大会成績表

<個人戦>

優勝	村上 勝光	(57点=ホールインワン5個)金沢本店B
2位	笹原外茂次	(59点=ホールインワン4個)加賀D
3位	源 義明	(61点=ホールインワン4個)能美A
4位	中川 博夫	(64点)金沢南C
5位	菊井 寛	(64点)羽咋D
6位	稲本登喜治	(65点)金沢西A
7位	石原 茂保	(66点)金沢南A
8位	内潟 利夫	(66点)河北B
9位	横西 勇	(67点)白山・野々市D
10位	桑名 正乃	(67点)河北D

<団体戦>

優勝	河北D	(356点) 桑名正乃、竹中 孝、浜田健二、東 哲男、北仙太郎
2位	羽咋A	(357点) 中村芳雄、井上邦光、稲荷益夫、松田武良夫、中山きよ能
3位	河北A	(359点) 出島正子、山口一雄、塩谷 博、本多 勇、桜井泰子
4位	金沢西A	(362点) 林 孝輝、池高喜一郎、林 精、山下和廣、稲本登喜治
5位	金沢本店B	(362点) 勘村武夫、佐々木靖、沼田忠義、村上勝光、村上美智子

個人・団体
上位入賞者

個人上位入賞者表彰式



団体上位入賞者表彰式

勤体協主催

第42回秋季体育大会

石川県勤労者体育協会主催「第42回秋季体育大会」の中盤の種目が相次いで開催された。

「バスケットボール新人大会」は、9月21日に白山市若宮公園体育館で男女15チームが出場して熱戦を繰り広げ、アンピシヤス(小松市)が男女とも優勝した。

「弓道大会」も同日、小松市桜木弓道場で18団体54名が参加。団体は県庁、個人の男子は川畑直樹(県庁)、女子は川田彩夏(津田駒)が優勝した。

「剣道大会」は9月23日、羽咋市武道館で開かれ、団体は北陸総合警備Aが優勝、個人戦の男子は佐藤博之(北陸総合警備A)が二連覇、女子は桶田茜(華暉会)が制した。

「ソフトボール決勝大会」は10月16日、金沢市宮専光寺ソフトボール場で地区大会を勝ち抜いた代表16チームが熱戦を展開、決勝でDZシャークス(金沢)が相球会(金沢)に5-5から抽選勝ちし、優勝を果たした。「バレーボール大会」は10月5日、加賀市スポーツセンターなどで開催され、男子7チーム、女子8チームの約230名が出場。男子は新風

バスケットボール新人大会

◇男子▽1回戦 村田製作所43-42DOM、SMACK46-28RUNRUNRUN
▽2回戦 アンピシヤス56-34村田製作所、I-Birds45-37GFE、PEACH32-29FIVESTAR、SMACK44-34インフィニティ▽準決勝 アンピシヤス70-39I-Birds、SMACK32-27PEACH▽決勝 アンピシヤス43-40SMACK

◇女子▽リーグ戦 ①fun mb②アンピシヤス③ELEGY④CHIPS⑤NECソフトウエア北陸▽決勝 アンピシヤス41-21fun mb

弓道大会

◇団体 ①県庁(川畑直樹、宮本光子、水橋美喜央)37中②大同工業36中③金沢村田製作所34中

◇個人▽男子 ①川畑直樹(県庁)18中②菊知(金沢村田製作所)15中③吉田(大同工業)14中▽女子 ①川田彩夏(津田駒)13中②岡本(能登島A)12中③中村(大同工業)11中

バレーボール大会

▽男子 ①新風②BCKラブ(小松)③BLOODS T ONE(能美)④SIG W T

島(相) ①江野上田(相)梅沢 ②大江野上田(相)梅沢 ③大江野上田(相)梅沢

DZシャークス0102022 相球会0200122 55

◇個人▽男子 ①佐藤博之(北陸総合警備A)②西村典丈(かほく市役所)③木沢俊一(中西造園)渡辺憲二(剣友会)▽女子 ①桶田茜(華暉会)②椿由美(華暉会)③四柳智恵(華暉会)

剣道大会

◇団体▽決勝トーナメント 準決勝 北陸総合警備A110中西造園、北陸総合警備B310北陸電力▽決勝 北陸総合警備A211北陸総合警備B

シニアソフトボール大会

ソフトボール決勝大会 ①1回戦 DZシャークス162球宴会、金沢市徒労組512志賀電サービス、千木野916マシナリス、W JIMAX917林商店、グンデイル1918近江町大友家、相球会813ノザワジャパン、スパークス110のんべん、輪島崎1016名友会▽準決勝 DZシャークス615金沢市徒労組、千木野414(抽選勝ち)WAJIMAX、相球会110ダンテイズ、スパークス814輪島崎▽準決勝 DZシャークス817千木野、相球会010(抽選勝ち)スパークス0

卓球七尾大会

◇硬式▽男子 ①Yuisstyle②卓志会③Freestyle、レインボウ▽女子 ①NOTOヤンキースA②勤体協③珠姫、ウインズ④ラージ▽男子 ①のときりしま②白山クラブ③金沢兼六クラブ、内灘クラブUCLBIA▽女子 ①ななおクラブ②内灘クラブUCLBIB③のときりしま

(能美市)、女子は西南部女子(金沢市)が優勝した。

「シニアソフトボール大会」は10月12日、金沢市宮専光寺ソフトボール場で3チームが総当たり戦で熱戦を繰り広げ、野町シルバーが2勝して初の栄冠に輝いた。

「卓球七尾大会」は10月19日、七尾市総合体育館で開催され、硬式の男子はYuisstyle(志

賀町)、女子はNOTOヤンキースA(七尾市)、ラージの男子はのときりしま(能登町)、女子はななおクラブ(七尾市)が制した。

第27回勤労者団体登山

27回目を迎えた勤体協団体登山は、10月11日(土)~12日(日)の間、近畿最高峰で日本百名山でもある大峰山系の主峰八経ヶ岳(1915m)へ中高年男女39名のパーティーが挑戦した。

登山口の奈良県天川村行者還トンネル西口までは観光バスからタクシー9台に乗り換えて約1時間半。懐の深い山で、鬱蒼と茂る樹林は奥吉野ならではの風景。

大峰奥駈道出合、聖宝ノ宿跡と急坂を登りつめて弥山小屋に到着。登りは心配された雨も降ら



ず、夜には満天星が見られるほど快晴兆候。翌朝5時起床。小屋東横の八方睨に立ち、待つこと50分。黄金色の素晴らしいご来光を拝むことができた。大台ヶ原の雄大な姿も遠望され、全員ご満悦の様子でした。

弥山頂上の天河弁財天社奥宮を参拝し、約1時間で八経ヶ岳頂上

を往復。展望を楽しんだ後、下山開始。トウヒやシラベの原生林を西にたどり、狼平避難小屋、析尾辻、門前山を経る約6時間にわたる長丁場にややバテ気味の参加者も出てきたが、そこは気力でカバー(?)。全員が無事に下山口の天川村役場に到着した。

ちなみに八経ヶ岳北側に位置する大峰山本体は今でも女人禁制とか。

帰りには、修験者の宿場町として知られる洞川温泉で一浴し、登山の疲れを癒した後、バスに揺られて午後11時過ぎ、金沢に帰着した。

県勤労者体育協会事務局長 中野俊一

第40次欧州労働視察の報告

＝石川労福協常務理事 綿 征一＝

はじめに

「第40次欧州労働者視察団」(全国から22名参加)の一員として、8月31日～9月11日の間、欧州(フランス・ベルギー・イタリア)のナショナルセンターにおけるライフ・サポートセンター(LSC)の取り組みについて視察。労働者福祉では歴史的にも運動的にも大きな実績を持っている3カ国のナショナルセンター(NC)を訪問し、その現状を学び、日本におけるLSCの課題解決に向けた情報収集を行った。

フランス

※9月3日午前、フランス労働総同盟(CDT-FO)を訪問し、最初にフランスの労働組合の説明を受ける。



フランスの総労働人口は2,700万人で、組織率は約12%。労働組合運動の発生は19世紀前半で、「市民革命」の精神を基本にし、組合への加入は完全な自由と労働組合複数主義を貫き、これらを阻害するクロード・ショップやユニオンショップ、チェックオフ制度は法的に認められていない。

したがって、現場における組合費徴収は、毎月、現金で納入するため、組合員数が毎月変化し、このことが低組織率の原因となっている。また、企業内、事業所内に複数の労働組合が存在する。

1936年に「労働協約拡張適用制度」を確立。『代表性を有する労働組合』が締結した労働協約は当該産業、地域の未組織労働者にも拡張適用されるため社会的影響力が大きい。

その他、EUの中でもスト発生件数が依然として多く、中でも労組の勢力が比較強い地下鉄、バス、航空などの公共運送や教育、医療機関などで依然としてストが多い。

ナショナルセンター(NC)は、『フランス労働総同盟(CGT)・・・1895年結成』、『フランス労働総同盟「労働者の力」(CGT-FO)・・・戦後復興のマーシャルプランをめぐってCGTから分裂』、『フランス民主労組連盟(CFDT)』の3組織があり、ともに旧ICFTUに加盟している。その他、フランスキリスト教労働者同盟(CFTC)、管理職総同盟(CFE-CGC)、独立組合全国連合(UNSA)、連帯統一民主労働組合(SUD)、統一組合労連・教員(FSU)が存在する。

※フランスの失業保険制度について

失業保険制度は1958年12月31日、社会的パートナー(労使の代表)によって社会福祉制度として設立された。この制度は、労使対等をベースに労使で運営されており、団体交渉で結ばれた協定を基に、政府が承認。すべての民間企業に適用されている。

失業給付支払制度の特徴は、失業保険料を支払った労働者に対する「失業保険制度」と「連帯制度」である。

「連帯制度」とは、失業保険制度が適用されない場合や適用が中止された場合、要するに失業保険料を支払えない労働者を救済する制度でAssedicが運営し、1984年からスタート。全額援助されるケースもある。高齢者に対する援助が多い。

なお、Assedicとは、失業者(求職中も含む)への失業給付金の支払いなどを行う組織でフランス全土に700ヶ所あり、地方において失業者の登録を行い、求職者をフォローアップし、給付金を支払う。また、保険料の徴収も行う。さらにAssedicは地方における雇用市場を調査し、失業者に見合った適切な対策を提案。15,000人の職員を抱える。

○Assedicの役割について

Assedicは地域において、求職者にスキルアップのための職業訓練コースを提案するとともに、それにかかる交通費や宿泊費、食事代などを財政的に援助する。

内容は、企業の設立や再スタートの支援に給付金を一括して支払うことや50歳以上の求職者に地理的移動が必要な場合、移動分の費用を増額する。また、経営者に雇用を促すための財政的支援、26歳以上の専門的な労働者に賃金の上乗せをすることもある。

○Assedicによって支払われる給付金の種類

「失業保険制度」に対しては、仕事への復帰支援給付金や特別再訓練給付金がある。また、「連帯制度」に対しては、一時金的待機手当や特別連帯手当、退職相当手当がある。その他、国の「早期退職制度」に対して特別(余剰)早期退職給付金もある。

○保険料

保険料率は、支払い費用に基づいて労使で決められる。

- ①全保険料・・・6.40%
- ②使用者側負担・・・4.00%
- ③労働者側負担・・・2.40%

保険料には最高限度額があり、最低賃金の8.5倍に相当する賃金から免除される額を超えることはできない。

※9月3日午後より、フランス(パリ) CDT-FO、AssedicとAnpe(パリ市「パシー地区」)を訪問、失業給付金事務所や職業紹介の相談所を視察した。



※フランスでの感想

今回、フランス労働総同盟(CDT-FO)より

ベルサイユ宮殿



失業保険制度を中心に学んだが、AssedicとAnpeの現場視察を含め、労使が社会的パートナーとして対等に「失業保険制度」を運営、「連帯制度」で労働者を救済していることや加盟組合員への法律相談等を実施し、ライフ・サポートセンターとしての機能を高めていることに感心した。

少子高齢社会で失業率(今年1月失業率は10%を超え、特に、25歳以下の4人に一人、約78万人の若者が失業中という深刻な事態を迎えている)が高い中、課題も多いと思われるが、労使で運営している「フランス失業保険制度」を継続し、日本を含め他国の手本となる歴史を作り上げることを望む。



ベルサイユ宮殿

ベルギー

※9月4日午後、国際労働組合総連合本部(ITUC)を訪問し、ITUCについて説明を受ける。

ITUCの結成は、2006年11月で国際自由労連(ICFTU)や国際労連(WCL)など8つの組織で結成。結成大会は、オーストリアのウィーンで開催された。組織は、155の国・311地域組織で、1億6,800万人の労働者が加盟(2007年12月現在)。実質的な意味で国際労働運動を唯一代表する組織。グローバル化を变革し、働く者に役立つ運動づくりを基本に、中核的労働基準の適用の実現、人権・労働組合権の確保、多国籍企業問題対策、労働災害、防止、児童労働撲滅、HIV/エイズ対策、貧困撲滅等々について協議している。日本の連合との関わりでは、高木会長と岡本副会長が執行委員に就任している。

※9月5日午前、FGTB(FGVV)アントワープ支部を訪問し、ベルギーの労働組合についてや社会保険制度、失業保険関係でNCとの関わり等の説明を受ける。午後には、支部の近所にあるサポート現場事務所を訪問する。



ベルギーの労働組合の組織率は約70%で、退職者も組織化している。労働団体は、キリスト教労働組合組連盟(CSC)=150万人、ベルギー労働総連盟(FGTB)=120万人、ベルギー自由労働総連盟(CGSLB)=22万人。以上3つのNCが存在する。

<社会保険制度>

社会保険料は、法律によって支払の義務が定められている。負担は、労・使と使用者側のみ、政府の支出(補助金)の場合がある。徴収は、社会保険庁が3ヶ月ごとに行う。

制度対象は年金、医療、疾病・障害、保証給与、児童手当、失業手当、年休、職業病など。負担率は使用者側が38.36%、労働者側が13.07%。社会保険制度の総コストは約900億ユーロ。

<失業保険関係>

失業手当は、社会保険庁が失業者に直接支払うのではなく、委託(支払機関)を受けたところが行う。支払機関は4つ、その内3つは労働組合(FGTB、CSC、ACV)で残りは国の機関。委託の条件は組合員が5万人以上であること。労働大臣が認可する。

FGTBは、組合員を対象に失業者の登録やアドバイス、失業手当の手続きとサポート、関係する事務処理などのサービスを行っている。事務所は全国に16ヶ所あり、その下に支払事務所(県レベル)が多数ある。職員は800人。失業手当の支払い銀行口座。業務には専門性が必要のため、FGTBは職員の教育・訓練、再教育を毎月実施している。

失業手当の申請1名につき、事務手数料が社会保険庁からFGTBに支払われる。この費用を運営コスト(人件費・事務所費)に充てている。ただし、この費用は他の分野に使用できない。取り扱い件数は年間755,000件(全体の約40%)、手数料は約30億ユーロ。

※ベルギーでの所感

EUの中でも、経済成長率が堅調な国内需要を背景に2.8%まで回復し、物価上昇率は低水準で安定(1.8%=2007年)、失業率は高水準で推移(7.5%=2007年)しているベルギーだが、政・労・使で運営している社会・失業保険制度にNCが関わり、高額の手数料で組合員をサポートするシステムはうらやましい限りだ。

イタリア

※9月8日～9日は、イタリア労働組合連盟(CISL)やCISLが設立した国の保険・福祉などの支援組織である全国社会的支援機構(INAS)、イタリア労組連盟(UIL)の福祉サービス施設ITAL、イタリア労働総同盟(CGIL)を訪問し、イタリアの労働組合の概況とNCの福祉部門が取り組んでいるバトロナート(イタリア独特のライフサポート制度)を学んだ。



イタリアの労働組合の組織率は約30%。労働組合運動の発生は19世紀前半。運動は、政党と教会の影響を強く受けてきた。

労働団体として、イタリア労働総同盟(CGIL)の結成は1947年。現在は政治的には中立。イタリア労組連盟(CISL)は、1948年キリスト教民主系活動家がCGILを離れてキリスト教労組として結成。イタリア労働連盟(UIL)は、1950年に社会系活動家がCGILから離れて結成。1990年代に入り冷戦構造崩壊後、各組織の共闘関係、特にEU、国際関係

で進んでいる。

組織化で特徴的なのは雇用労働者が目立って増えているがサービス業などの組織化は十分に進んでいない。

近年は、退職年金受給者の組合員が急激に増加。CGILの組合員の55%、CISLの50%、UILの25%は年金受給者といわれている。

年金受給者組合については、組合員に幅広いサービスを行うための非営利共済組合として運営。福祉政策に敏感な政治勢力として、地方自治体単位で組織されており、中央政府、地方自治体当局と年次団体交渉を行い、全国で2,000以上の労働協約を締結している。

<バトロナート>

イタリア独特のライフサポート制度で、国が法的に認知しているもの。イタリアでは各種社会保障や税金などの申請手続きが法的・事務的な面で大変に煩雑なため、主に3つの労働組合(CGIL、CISL、UIL)とキリスト教団体(ACRI)の計4つが国の委託を受けてこの申請手続きのサポート事業(無料サービス)を行っている。ただし、労働組合は運営に直接参加できないため、個別に支援機構をつくり、活動している。

この機構は事実上、各労働組合の福祉部門の役割を担っている。国の認定には①全ての人を対象とする、②民主的組織運営、③労働省への登録が必要となる。この機構の役割を一言で言えば、公的機関と労働者(国民)の間の錠(かすがい)といえる。以下は、NCが取り組んでいる福祉事業の内容。

i. CISL(イタリア労働組合連盟)の場合

年金、失業手当、保険・共済の申請手続きを、職員1200人、医師350人が全国800支部・海外90出張所(職員150名)でサービス提供している。

資金は、年金基金から約1億ドル支払われ、年間450万件を取り扱っている。対象は、50%が組合員で残りは非組合員(サービスを受けた14万人が組合員になった)。失業対策では、就職斡旋は国の仕事であり、ここでは行っていない。

その他、イタリアでは一年に1度税金の確定申告をしなければならないが、手続きが煩雑(間違えると罰金)なため、そのサポートも行っている。昨年200万件の申請手続きをサポート。1件につき20ユーロが国から支払われる。

ii. UIL(イタリア労働連盟)の場合

年金・医療福祉サービス組織が国内に700支部と海外にも出張所がある。

その他、税金申請サポート組織や住宅生協(住宅価格の適正化、賃貸住宅への支援など)、全国消費者連合(会員は73,000人。入会金1人5ユーロ。全国209支部。職員1,500人=ボランティア)、全国社会組合連合(老人・子ども・障害者支援や困難な人々の社会復帰支援で福祉事業を行っている。)

iii. CGIL(イタリア労働総同盟)の場合

労働者福祉組織で年金、労災、職業病、産休、障害者支援、困難企業支援、海外労働者支援などを行っている。(取り扱い件数120万件)その他、税金サポート組織や労働相談も実施している。

また、CGILでは失業者の組織化を行っている。組合費は本人の希望額(概ね一人1ユーロ)で、加盟形態は直加盟(600万人の全組合員に毎年組合員証を発行する)組合員数17,720人。失業



手当、各種社会保険などのサービス、争議などを支援するが、組合員への就職斡旋はしない。

※イタリアでの所感

イタリアの労働組合制度は、伝統的に「統一交渉(one-channel)」システムをとっており、CGIL、CISLおよびUILといった大規模な労組が、他の労組の活動を統一し、労働者の労組への加入いかに関わらず最終的にすべての労働者を代表するということである。こうしたシステムの下では、組合員だけが組合費を払い、労組の活動の恩恵はすべての労働者が受けることができるので、特に、若年労働者が労組への加入を望まなくなってきたり、組織率が低下傾向にある。また、イタリアの人口の伸びはすでにマイナスに転じ、他の欧州諸国と同様、少子高齢社会となっており、課題が多いと思われる。

しかし、こうした環境下で国や自治体からの委託事業として、年金、失業手当、保険・共済の申請手続きをし、国からの手数料で運営。その他、税・法律・労働の相談サービスも提供している。

いわゆるライフ・サポートを組合員のみならず未組織労働者を含めて実施し、また、退職者・年金受給者の組合員化(有料)を行う等、我々が取り組んでいるライフ・サポートの運動に多いに参考となった。



最後に

今回訪問したパリ、ブリュッセル、アントワープ、ローマは、いずれも歴史・伝統を重んじ、建築物や町並みを大切に保存しながら個人の生活や店舗、会社、役所機関などが地域で共存することを基本にしているためか、その美しさは旅行者を堪能させるのに充分すぎるほどである。

視察の目的である、3カ国のナショナルセンター(労働組合)が中心となって取り組んでいるライフ・サポートセンターの活動は、事前に研修したとおり、歴史的にも運動的にも大きな実績を持っており、労働者・退職者・高齢者の福祉関係、とりわけ年金・税金や失業問題にナショナルセンターが大きく関与していることを学んだ。

この基本は、労働者の政治への関わりに他ならない。労働者のための政策は、政権に関わらなければ生まれてこない。年金・税金問題を含め、3カ国のナショナルセンターは、少子・高齢社会の下、共に退職者を組合員とし、会費を集めて運営している。権利を重んじるには義務を果たす。今、石川労福協で取り組んでいるライフ・サポートセンター運動の課題がはつきりと見えてきた。そういう視察でもあった。

通貨が統一され、1ユーロ=150円台と極めて高い物価に困惑したが、いずれにしても、こうした機会を与えて頂いた組織の皆様へ感謝し報告とさせていただきます。

地域ライフ・サポートセンターだより

白山・野々市

「第6回地域交流G・G大会」
170名が参加

白山・野々市LSCは9月13日(土)、白山市海浜公園C C Zで選手や大会役員ら約170名の参加で「第6回地域交流グラウンド・ゴルフ大会」を開催した。

大会は、油省三会長が開会挨拶の後、成正外志競技委員長がルール説明を行い、32ホールでストロークプレーで開始された。

前日までの好天とうって変わり、プレー開始前には雨が降り始めたが、日頃より練習をしている選手が多いためか、あちこちでホールインワンの歓声が上がった。練習成果を発揮できた人、実力を発揮できなかった人など、それぞれにプレーを楽しんだ。

最後に、表彰式とお楽しみ抽選会で盛り上がり、無事終了した。大会進行に協力いただいた関係者に、感謝を申し上げます。

また、10月に実施される「福祉グラウンド・ゴルフ中央大会」に出場する成績上位者の健闘を祈ります。

白山・野々市地域LSC事務局長 福村 滋

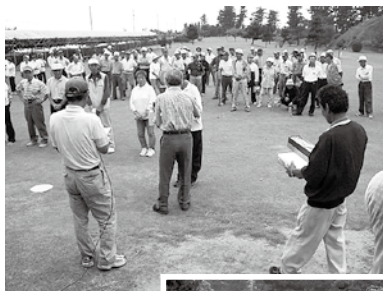
河 北

「第6回地域交流G・G大会」
目指せ王座奪還

第6回河北地域交流グラウンド・ゴルフ大会(中央大会予選会)が9月13日(土)、かほく市高松グラウンドゴルフ場で開催され、時々小雨の降る中、135名の選手が参加した。

今年は、高松・内灘地区からの参加者が増え、過去最高の参加数となった。集まった参加者は各地域のトップレベルの選手で、レベルの高い熱戦が展開された。優勝した山岸明雄さんは、32ホールでホールインワン5個、57点のハイスコアの成績となった。

LSCの大会は好評で年々参加者が増え、スコア的にも上位20名は70点位で大変立派なスコアとなった。この選手連が中央大会で持てる力を十分発揮してくれれば、2年ぶりの王座奪還も夢ではないと信じている。



七尾・鹿島

「信州バス旅行」
少し早めの秋を実感

稲刈りが終わった秋晴れの9月20日(土)、「信州バス旅行」を七尾・鹿島地域LSCとろうきん七尾支店の共催で実施した。

出発当初の雨も75名の参加者の思いが通じたのか、黒姫高原に近づくにつれて好天となり、到着時には少し汗ばむほどの陽気となった。季節を先取りすることを目的として企画された今回のバス旅行は、高原いっぱい咲くコスモスに囲まれて、松茸づくしの昼食と巨峰狩りを満喫し、たくさんのキノコをお土産としていただく贅沢な旅行となった。

今回は、ちょっと遠出となったが多くの参加をいただき、少し早めの秋を実感。参加者同士の交流も深まった最良の一日となった。

七尾・鹿島地域LSC事務局長 井田孝之

<入賞者>

- 優 勝 山岸明雄(宇ノ気・七窪友好会) 57点
- 第2位 出島雅子(宇ノ気) 62点
- 第3位 山口一雄(高松) 65点
- 第4位 堀谷 博(宇ノ気) 66点
- 第5位 本多 勇(宇ノ気・七窪友好会) 66点

河北地域LSC事務局長 吉川武久

輪島・七尾で「退職前セミナー」を開催



8月31日(日)9時30分より輪島市労働福祉会館3階ホールで開かれた「退職前セミナー」には17名が参加。公的年金制度について谷内美穂子社会保険労務士の講演と個別相談会を実施した。

開会にあたり上野正剛LSC会長は

「人生80年と言われ、60歳の定年から年金が満額もらえる65歳の間をどのようにして働くか。また、60歳以降20年間の生活をどのようにするかを考えていただきたい」と挨拶した。

講師の谷内氏は、セミナー参加者に公務員が多いことから、共済年金を主として話し、厚生年金との違いや共済年金の優位な内容など、細かな説明に参加者はうなづきながら聞いた。

講演後、労金・全労済の職員による個別相談会も開催され、12時頃に終了した。

輪島・穴水地域LSC 境 薫



七尾鹿島地域LSCでも、8月30日(土)、七尾鹿島労働福祉会館で、輪島LSCと同様、谷内美穂子社会保険労務士を講師に招き「退職前セミナー」を開催した。

参加者25名のうち公務員が8割を占める講演会となったが、参加者は、配布された資料に、退職後の年金制度や健康保険制度などを熱心にメモした。

七尾鹿島地域LSC 高山真理